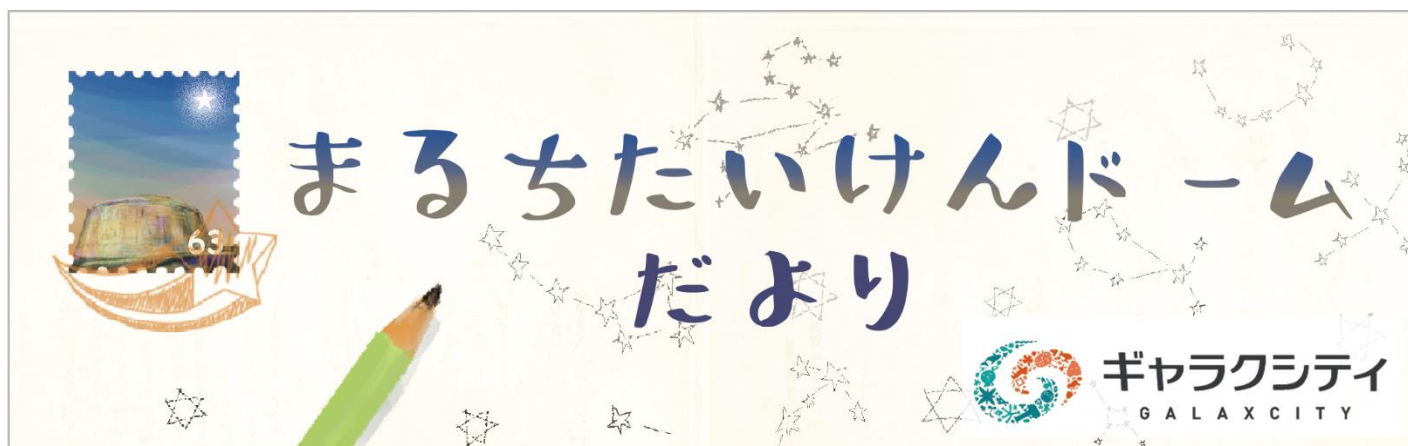




木星と土星の会合^{かいごう}

2020年12月21日、木星と土星がすごく近づいて見えました。^{ぼうえんきょう}望遠鏡など使わずに目で見る^{べつべつ}と別々に見えるのがむつかしいくらい近づいて見えました。こういった惑星^{どうし}同士が近づく事を「会合」といいます

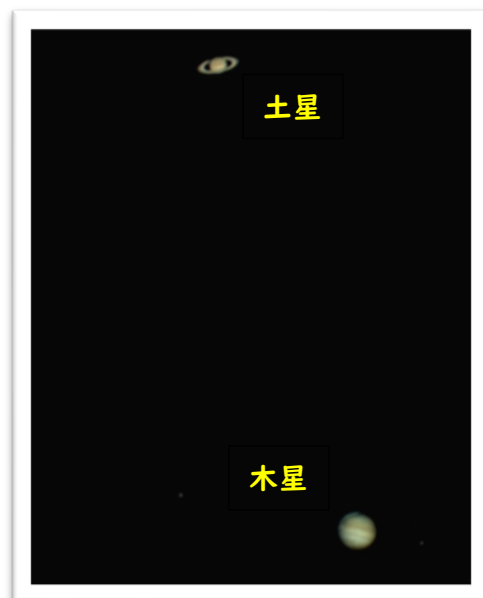
木星と土星は、だいたい20年に1回くらいのわりあい
で会合が起こりますが、今回のようにすごく近づいてみえるのは397年ぶりだそうです。次にこのくらい近づくのは60年後になります。今回どのくらい近づいて見えたかという^{すうち}と、数値にすると0.1°、でも土星のすぐそばに木星がやってきたわけではないのです。

「近づいているっていついたけど、どういうこと？」

木星は太陽から見て地球^{そとがわ}の外側を回ってきて、土星はさらにその外側を回っています。地球から見て土星がみえる

方向と同じ方向に木星がやってきたという事です。木星と土星が太陽^{まわ}の周りを回っている軌道^{きどう}はほぼ同じ平面にあります。そして木星が回る周期^{しゅうき}の方が土星の周期より短く、土星が木星を追い抜く^ぬときに同じ方向にみえる事になります。

さて、クリスマスはすぎましたが、イエスキリストが誕生^{たんじょう}した時に輝^{かがや}いたという、ベツレヘムの星（クリスマスツリーのてっぺんの星です）は、この木星と土星の会合^{せつ}だったという説があります。イエスキリストが生まれた頃^{ころ}の紀元前7年にはこの木星と土星の会合が1年の間に3回もおこったという事がわかっています。



2020年12月21日の木星と土星
^{てんたいぼうえんきょう}天体望遠鏡を使って撮影^{さつえい}（撮影：足田純之）

^{かいせつじん ひきた あつし}（解説員：足田 純之）